

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
藤野地区まちづくり会議報告書**

平成30年8月

藤野地区まちづくり会議

目次

(課題と対応方策)

1	【重点】都市計画・都市整備	P 1
2	道路・交通	P 2
3	住環境・生活環境	P 3
4	自然・環境	P 4
5	産業・観光・商店街	P 4
6	安全・安心	P 5
7	【重点】健康・医療・福祉	P 6
8	教育・子育て	P 7
9	生涯学習・文化・スポーツ	P 8
10	地域コミュニティ	P 9
	会議経過	P 10

1 【重点】都市計画・都市整備

現状と課題

藤野地区を含め相模原市では、今後ますます深刻となる人口減少・少子高齢化において、現在の行政サービスが維持できないことが想定され、住民が現在の地域で安心して住み続けるための対策が必要です。

また、JR 藤野駅周辺の賑わいを創出するため、駅北側の土地利用の検討や登山客などの観光客がバスや電車を待っている間の休憩場所の設置の検討が必要です。

駅北側の沢井トンネルについては、今までも地区で勉強会を実施するなど検討を進めていますが、歩道がなく車がすれ違えないことができないため、安全上支障があり、拡幅する必要があります。

また、津久井広域道路については、相模原市全体として一体感を醸成するためにも早期の実現が望まれます。

対応方策

訪問医療・介護、自動運転、移動販売やドローン（特区認定による規制緩和）の活用など、人が移るのではなく、機能やサービスが移動する藤野モデルの形成（シェアリングエコノミーなどの中山間地域のモデルの形成）（市民・行政・民間）

JR 藤野駅北側の土地利用や沢井トンネルの拡幅について、引き続き検討を進める（市民・行政・民間）

- ・ 駅周辺にベンチの増設やカフェの設置など休憩場所の検討を行う（市民・行政・民間）
- ・ 駅周辺に登山客が利用できるコインロッカーの設置の検討を行う（市民・行政・民間）
- ・ 津久井広域道路の勝瀬橋までの延長を早期に実現する（行政）

2 道路・交通

現状と課題

吉野地域内の国道20号が拡幅され、歩道ができ、広くなった一方、補修がされていない道路や、災害で壊れた橋・崖崩れした箇所の補修の遅れなど、道路環境等の適正な維持管理が課題となっております。さらに、道路脇の雑草が伸び、特に小学生の登下校の安全に支障がでていることも課題となっております。

また、駅周辺・登山道の駐車場などが不足していることも課題です。

今後、タクシーやバスなどの人手不足・路線の廃止などにより、地域住民の移動手段がなくなることも懸念され、代わりとなる移動手段を確保する必要があります。

対応方策

- ・ 掲示板や回覧板などを活用し、道路補修などの実施時期（未定も含め）や進捗状況などが地域に伝わるシステムを構築する（行政）
- ・ 藤野地域内の国道20号の拡幅を早期に実現する（行政）
- ・ 道路の補修について、予算をつけて対応する（行政）
- ・ 地域が自主的に実施している場所もあるが、市が実施している道路の草刈について、場所や時期を自治会などが決めて実施できるような体制に変更する（市民・行政）
- ・ 公共交通の代わりとして、電動自転車のレンタサイクルを導入し、地域住民の生活としての利用及び観光客の利用を促進する（市民・行政・民間）

3 住環境・生活環境

現状と課題

藤野地区では、神奈川県との協定により水源の涵養に繋がる森林については、適正に管理がされていますが、それ以外の森林については、所有者の高齢化などにより管理が適正にされておらず、日照が悪く、健康や農業への影響や道路にはみ出し安全上支障をきたすなどしています。個人所有の森林は、市や自治会が伐採することが出来ないなどの課題があります。

また、藤野地区に移住を希望する人が多くいますが、移住者に貸し出してくれる貸家が少ないなど、移住希望者の住居の確保が求められています。

冬季の除雪への対応については、地域によって差があり、除雪が遅れてしまう地域があることも課題です。

対応方策

- ・ 森林を適正に管理することで、景観もよくなり、観光振興にもつながることから、安全上支障をきたしている樹木や所有者不明の森林については、所有者の許可がなくても伐採や管理ができるような制度の検討を行う（行政）
- ・ 森林などの管理に係る権限を地域に近いまちづくりセンターに移譲する（行政）
- ・ 自治会を通じて空き家の提供依頼や情報提供を行う（市民）
- ・ 空き家の片づけができないため貸し出せない家もあることから、片づけを行う業者などを活用する（市民・民間）
- ・ 除雪への対応については、市にも速やかな対応を求める必要があるが、自助により地域が協力することで、速やかな除雪を行う（市民・行政）

4 自然・環境

現状と課題

藤野地区では、地域団体による美化活動やトランジションタウン、パーマカルチャー運動など、持続可能な社会をつくる活動が展開されています。

その一方で、ヤマビルやマダニなどの発生により、農作物の被害だけでなく、人的な被害に及びつつある鳥獣被害などに対策を講じる必要があります。

対応方策

- ・ヤマビルやマダニは、鹿に寄生し連れてくるため、鹿が人里に近づかない対策を行う（市民・行政）
- ・草刈をしっかりと行うことで、発生地域の拡大を防ぐ（市民・行政）
- ・鳥獣被害については、動物を保護することも重要だが、人的被害に及びつつあるなど、現在の規制と現実とのギャップがあるため、規制の緩和や鳥獣に対する認識そのものを変えていく必要がある（市民・行政）

5 産業・観光・商店街

現状と課題

藤野地区では、山道が整備されて、登山客が増加しました。また、藤野の特色を活かしたビオ市や野菜市、藤野里山体験ツアー、藤野ぐるっと陶器市などのイベントに、若者や他の地域の人々の参加が増えるなど、以前より藤野地区の事が知られるようになりました。その一方で、相模原市内でも藤野地区の事を知らない方も多くいます。

また、交流人口を増やすために各種イベントを実施し、観光客が増えていますが、トイレや駐車場などのハード面の整備が足りていないことも課題です。

藤野地区は宿泊施設が少ないことに加え、藤野芸術の家の宿泊可能日数が連続2泊までとなっており、大きな会議や何日間かけて実施するイベントなどが実施できないといった課題もあります。

対応方策

- ・知名度を上げるため、観光協会や地区連など各団体が、活動を広めていく(市民・関係機関)
- ・イベント時は仮設トイレの設置により対応出来るように予算を確保する(行政)
- ・観光客をこれからも増やすため、早急にトイレや駐車場といったハード整備を行う必要がある。また、常設のトイレは、汲み取り式が多く、観光客が汚いなどの理由で使用を避けるため、水洗のトイレを設置する(市民・行政)
- ・学校のトイレを利用するなど既存施設の活用を検討する(ただし学校などは防犯面を考慮する必要がある)(行政)
- ・民泊や農家民泊を推進し、宿泊施設不足を解消する(市民・行政)
- ・藤野芸術の家の宿泊可能日数を延ばす(行政・民間)

6 安全・安心

現状と課題

藤野地区では、防犯灯のLED化により夜間の道が明るくなり、落書きについても減っているなど、防犯対策が図られていますが、行政が実施している防犯カメラの設置補助の件数が少なく、地域が望む場所への設置ができていない状況です。

また、カーナビゲーションの進歩により、渋滞回避のために脇道に誘導されるなど、特に通勤・通学の時間で狭い道路に車が増えています。また、車がスピードを出して進入してくるため、歩行者の安全が懸念されています。

対応方策

- ・防犯カメラの設置について、自治会単位ではなく、地区全体で補助申請できる仕組みづくりを行うことで効率的な設置を行う(市民・行政)
- ・自動販売機に防犯カメラを設置する(市民・行政・民間)
- ・車への注意喚起のため、交差点の地面に絵を描くなど、藤野地区らしいアートを活かした安全対策を行う(海外で実証されている事例)(市民・行政)

7 【重点】健康・医療・福祉

現状と課題

藤野地区では、ひとり暮らしの高齢者が増加しており、ひとりでも安心して暮らすことができるような医療・介護サービスの充実が求められています。その一方で、そうした職業に従事する人材の確保が課題となっています。

また、山間地に住む方への対応に関しては、規制緩和によりオンライン診療などで、遠隔地での診療が可能になりましたが、どうしても訪問をする必要がある場合には、予算などの関係で回数が制限されてしまうことが課題となっています。

藤野地区の住民が総合病院を受診する場合、上野原にある病院を受診する方もいますが、上野原の病院は現在でも人手不足となっており、今後、更なる人手不足による医療サービスの低下が懸念されます。

また、地区内にある一部の診療所では、開所時間前に人が待っているなど、夏場は日射病などの体調不良が懸念されることや買い物や福祉・医療サービス等を利用するための交通手段がないことも課題となっています。

対応方策

訪問型の医療・介護サービスの充実や介護の拠点となる施設を設置するなど地域特性に合わせた藤野独自のサービスを行うなど高齢者がひとりでも安心して暮らせる体制をさらに推進し、安心して暮らせるまちづくりを目指す（市民・行政・民間）

国家戦略特区の指定への働きかけを行い、AIなどの先進技術を活用した自動運転の自動車・バスの実証実験や自家用車を利用したタクシー営業いわゆる白タクの導入など新たな交通システムを積極的に受け入れる（市民・行政・民間）

- ・山間地へ訪問するための経費については、加算をするなど財政的な支援をする（行政）
- ・市内医療機関と上野原など近隣の市町村の医療機関との広域的な連携を促し、人材育成・人材確保をなど、医療サービスの充実に向けた取組みを推進する（行政・民間）
- ・未病のための取組を推進する（市民・行政）
- ・医療機関の開錠時間を早め、待合室で待てるようにする（行政・民間）
- ・現在地区で実施されている訪問診療など自宅訪問型の医療について、さらに推進する（行政・民間）

- ・乗合タクシーのほか地域で運営できるような交通手段の検討を進める（市民・行政）
- ・診療所と薬局が近接していない場合の足が悪い方などの交通手段を確保するための検討を行う（市民・行政）

8 教育・子育て

現状と課題

藤野地区では、シュタイナー学園への入学を希望する家族が移住してきており、移住者が増えています。一方で、保育園・幼稚園・小中学校の児童・生徒が少なく、さらに減少することが懸念されています。

また、子どもの遊び場が少なく、遊び場があっても、そこまでの移動手段（安全上の問題）がなく、子どもだけで自由に遊ぶことができないことが課題です。

対応方策

- ・幼保連携型認定こども園への移行を検討する（行政）
- ・子どもにとってより良い教育環境について検討し、学校の統合も含めた今後のあり方について検討を行う（市民・行政）
- ・学校の校庭を積極的に開放し、移動手段も確保するなど子どもの遊び場を確保する（行政）
- ・子どもの遊びを確保するため、市民緑地認定制度の活用を検討する（市民・行政）
- ・子どもが公園などに安全に移動できる移動手段の確保を検討する（市民・行政）

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

藤野地区では、公民館での活動が活発ですが、全市的な公民館の有料化により、使いづらくなってしまい、減免の申請についても手間なため、活動の停滞が懸念されます。

対応方策

- ・公民館を利用するためのカードを作成し情報を登録しておくことで、利用申請や減免申請を行えるようにするなど事務を簡素化し、利用しやすくする（行政）
- ・Suica や PASM0 などの電子マネーでの支払いを出来るようにする（行政）



10 地域コミュニティ

現状と課題

藤野地区では、人口減少・少子高齢化が著しく進行しており、移住促進など、人口減少に歯止めをかける対策が必要です。相模原市全体でも、平成32年度から人口が減少すると推計されていることから、市の大きな課題として、人口減少対策を検討していく必要があります。

また、地域住民が日常的に集まれる場所がないため、居場所づくりの創出や地域の課題を地域で解決できる体制の構築も重要な課題です。

対応方策

- ・人口減少が進行する原因を把握し、今後の対策へ活かすため、転出者に転出理由などを調査するアンケートを実施する（行政）
- ・すぐに移住に繋げることは難しいため、地区に興味を持っていただき、イベントなどに参加していただく関係人口を増加させる取組を推進する（市民・行政）
- ・UターンやJターンなど特に地域に縁のある人の移住を積極的に促進する（市民・行政）
- ・先進市の様に移住促進を担当する職員を配置する（行政）
- ・温泉施設など地域資源や施設を活かした地域住民の居場所づくりを行う（市民・行政）
- ・地域の課題を地域で解決するため、区やまちづくりセンターなど、地域に近い場所に権限を下ろし、より地域の実情に合わせた行政運営を行う。（行政）

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月25日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	21名
6月19日	第2回（ワーキンググループ） ・課題と対応方策検討	7名
7月23日	第3回（ワーキンググループ） ・課題と対応方策検討	7名
8月9日	第4回まちづくり会議 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	16名